

# いいたての子 いい子に育て 大人の声で

## ～地域・保護者の方へ～

### 教育の原点は、家庭にあり ～あいさつから始めよう～

- ・「おはよう」の元気な朝のあいさつから
- ・「いただきます」「ごちそうさま」
- ・「ってきます」「ただいま」
- ・「ありがとう」
- ・「すみません」
- ・「しつれいしました」
- ・「おやすみ」

※家庭で「基本的な生活習慣」を！

- ・子供にあいさつさせるには、まず、親から明るいあいさつをしましょう。

〔子供は親の姿をみて育つ〕



▲中学校のあいさつ運動

# シツカリしかる。

嫌われます。間違った行いは本気でしかり、その場で正す事が本当の愛情です。

「自分だけよければいい」という考え方（自己主義）はやめ、しかる時には何がいけないのか、理由をちゃんと伝えましょう。また、感情や気分にならず、一貫性を持って叱ることも大切です。そして、自分自身もルールに反することはしないように気をつけましょう。子供に信頼され、尊敬される親であるためにも。

（文部化学省 家庭教育ノート 福島県版より）

いけないことをいけないことと思わない子供が増えていきます。「自分さえよければいい」「ルールを守らない」という人は、人から信頼されず、

# タツプリほめる。

「日本の教育は減点主義ですが、教育は加点主義のほうが効果的ですね。つまり、子供はほめて育てる方が良いのでは…」

これは、ノーベル賞受賞者の田中耕一さんが受賞後のインタビューで話された言葉です。現代の大人も子供も、忙しい忙しいと毎日暮らしてはいませんか。

もっとゆったり子供たちを見つめていきませんか。

目を細めて子供たちを見守っていきませんか。

子供たちの良いところを見つけてほめてあげませんか。

家庭で、学校で、地域で子供たちをじっくりみつめて、

「こころうさん」「ありがとう」

「えらいね」「がんばったね」と

声をかけてあげましょう。

自分が誰かの役に立つ。相手から「ありがとう」と

言ってもらったら、我々大人でもうれしいものです。

ほめられる家庭に子供の居場所がある。

学校でほめられると親もうれしい。

地域の人にほめられれば、

その地域は居心地が良いのではないのでしょうか。



今、全国各地で子供たちをほめて育てようという運動が繰り広げられています。

今年3月、大分県の前津江村を会場に「全国子どもをほめよう研究大会」略して「子ほめフォーラスin前津江」が開催されました。

パンフレットには「キラッと光る小さな芽、みんなで探して育てよう」「地域や家庭にとって子どもは宝、ほめること・ほめられることがどのように宝を輝かせて行くか、語り合い、学びあいましょう」とうたわれています。

学びあう為に、全国各地から多くの参加者が参加されたようです。